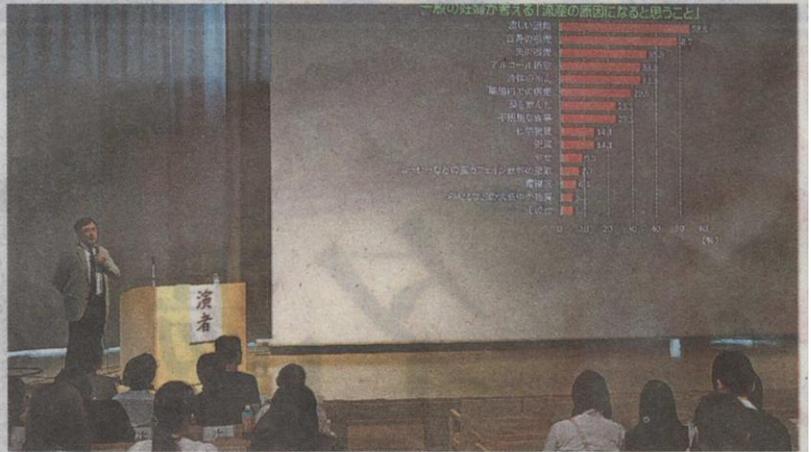


不育症の予防やケア学ぶ 当事者ら岡山で公開講座



不育症をテーマにした講演などがあった市民公開講座

妊娠しても流産、死産を繰り返す「不育症」をテーマにした市民公開講座(岡山県不妊専門相談センター主催)が15日、岡山市北区鹿田町の岡山大Jホールで開かれ、悩みを抱える当事者ら約110人が予防やケアの仕方を

学んだ。

同大の中塚幹也教授(生殖医学)は「流産に関する「常識(思い込み)」にとらわれないで」と題して講演。不育症の女性は2度目以降の妊娠が判明した時にストレスを感じやすいと説明し

「また流産してしまうのではと不安に駆られる。家庭で相談したり、専門機関を利用したりして心穏やかに過ごしてほしい」と呼びかけた。

夫の心理ケアの重要性も指摘。「夫も考え過ぎるとストレスを抱え、産後うつが発症や夫婦の離婚につながりかねない。夫は『支える側』という思い込みをなくし、妻と支え合うことが大切だ」と強調した。

講座は日本不育症学会学術集会の一環。子どもと別れる悲しみを緩和する「グリーンケア」、当事者同士で悩みを話し合う「ピアサポート」の支援団体による活動紹介もあった。(古川竜聖)